

## 関東シンビオ・黄檗会の講演会・懇親会実施報告

日時：平成 23 年 11 月 25 日（金）16 時—19 時 30 分

場所、参加者数：

講演会(16:00-17:30)

京大東京オフィス（品川）で講演 1 件(参加者 18 名)

懇親会(18:00-19:30)

品川駅近傍三菱重工業ビル内”ニュートーキョー”にて懇親会(参加者 18 名)

幹事団：

中村 洋之、宮澤 龍雄、藤井 有蔵、久郷 明秀、前田 伸悟、新田 和弘、下尾崎 寛子

### 講演のまとめ

標題：「ポスト・フクシマ」論のポイント---アジア太平洋の「エネルギー・ハブ」構想を考える--

講師： 渋谷 祐 氏

(エネルギー・ジオポリティクス代表 早稲田大学アジア太平洋研究センター特別研究員)

概要： 冒頭、本講演企画者の宮澤 龍雄 幹事から講師紹介があり、その後、若手幹事の前田 伸悟 氏 の司会で講演が進行した。渋谷 氏は、下記の順で講演された。

1. 東日本震災の与えた教訓——社会の関心は原発ばかりに集中しているが、東日本震災/福島第一原発事故の与えたエネルギー・インフラの損害として製油所や天然ガスパイプラインなどの損害状況を紹介され、震災後アメリカの天然ガス取引価格には変動が無いのに、日本向け LNG 価格は高騰していることを報じた。
2. もう一つ「そこにある危険」地政学リスクとコスト——まず今回の東日本震災を石油ショックと対比して今回のリスクの特質を論じた。とくに相次ぐ中東地域での政権崩壊について「アラブの春」の行方とその“Jカーブ”理論による資源地政学リスクを紹介した。次いでガソリン販売価格はみかけ上、米国は日本に比べ安いのが、ペルシャ湾防衛費など安全保障費を合わせた隠されたコストは日本に比べガロン当たり 0.68 \$ 高いことを指摘し、米国は日米同盟における両国の防衛コスト分担差から日本に一層の防衛負担を要求してくると述べた。
3. ユーラシアのパイプラインポリティクス—中ロによる中央アジアの「資源囲い込み」——ロシアおよび中国による中央アジアの天然ガス資源開発とパイプライン敷設による欧州および極東地域への輸送網構築の動き、中国による太平洋への国益展開の状況の紹介があった。なお目下の中国の電力不足の最大要因は、市場で決まる燃料価

格に対して電力価格は統制されているため、発電コストの7割を占める火力電力会社は採算ラインぎりぎりの経営になり、石炭需給逼迫、価格高騰を受けて火力発電稼働率が低下しているためと説明された。

4. 「万が一」に対する備え——国家備蓄119日、民間備蓄86日の190日を越える石油備蓄の効用が紹介された。
5. アジア太平洋の「エネルギー・ハブ論」——スマートグリッドとデマンド・サイドビジネスの新展開、ジャパンスーパーグリッド構想、アジアスーパーグリッド構想、環状線型の天然ガスパイプライン構想（東アジア）、ASEAN 豪州グリッド計画（送電線・天然ガスパイプライン）の紹介があり、主要国の中で、日本は唯一越境型グリッド（送電線と天然ガスパイプライン）を持たない国である。越境型グリッドは我が国の「全体としての」エネルギー安全保障度を高めるのではないかとの問題提起があった。
6. まとめ——180度逆転のシナリオの発想として、我が国は「エネルギー・ハブ」地域連携協力（オープン）型の方向をめざすべき、と締めくくられた。そのポイントは、以下にまとめられる。

<ハード>

- 「エネルギー・ハブ」はアジア経済の不均衡発展を健全化する
- インターコネクター・グリッドはサプライチェーンの一つ
- 我が国は自然エネルギー、原子力も含め「エネルギーの総合デパート」になる（潤沢でブランド品質は最高）
- アジアはデマンド・サイド型ビジネスの巨大成長市場

<ソフト>

- 海外のエネルギー資源の量的供給力は十分にあるが、「東日本発」のガスの価格高騰がいつまで続くか
- 政治と経済問題を分離する（東シナ海ガス田開発、北方領土）
- 中東問題などの地政学リスクは外交力で解決努力する

その後、参加者との間で活発な質疑応答が交わされた。

総評： 渋谷氏の講演は、目下、マスコミの取り上げ方で原発の是非ばかりに矮小化され来年の電力不足にも眼が行かないヒステリックな国内情勢への関心から離れて、今後の日本が世界、アジア全体の中での立ち位置から壮大なエネルギーインフラを前向きに構想するもので、非常に有益なものであった。

講演 PPT 参照

申し送り事項：

京大東京オフィスを利用しての関東シンビオ会・黄檗会という形で世代間、異業種間の交流を図ることは有意義であり、今後も継続発展を図りたい。しかし、現役諸兄に配慮すると、ウイークデイ開催では都合がつかない人も多く、休日（土曜日の午後等）の開催を検討すべきかも知れない。若手の黄檗会OBに広く交流の場となるよう、特に若手にも広く幹事を募り、会の発展を期したい。具体的には、来年以降は 研究室出身の中堅と若手に幹事を増やし講演も年配と中堅にそれぞれ何か講演を企画してもらおうという格好がよいだろう。昨年につき、今年も中村幹事を中心に企画運営いただいた幹事団、ありがとうございました。



講演会での澁谷氏の熱弁風景



”ニュートーキョー”での懇親会参加者の記念写真